

オーストラリアの初等教育における芸術科カリキュラムに関する研究

—音楽分野を中心に—

唐 崎 裕 子

(本講座大学院博士課程前期在学)

A Study on the Arts Curriculum in Elementary Education in Australia: Focusing on Music Learning Area

Yuko KARASAKI

I はじめに

オーストラリアでは、1901年の連邦結成以降、1970年代まで各州が独自の教育政策を実施していたが、1970年代から1980年代にかけて、教育の機会均等と平等性への意識が高まり、1988年に発表された「オーストラリアの学校」において、オーストラリア全体に共通のナショナル・カリキュラムを作ることが提唱された。その流れを受けて、1994年に、教育課程開発のための全国的枠組を示したナショナル・カリキュラムが発表されたが、法的強制力はない。初等・中等教育については、各州・直轄区が教育行政の権限を保持しているために、各州の教育省がカリキュラム¹を作成しており、州が作成するそのカリキュラムに従って各学校がシラバスを編成している。

ナショナル・カリキュラムや各州のカリキュラムにおいて、初等教育では、音楽科はダンス Dance、ドラマ Drama、メディア Media、美術 Visual arts の4分野とともに、芸術科という教科を構成する1分野として位置づけられており、5つの芸術分野が1つの教科として統合されている。州によってはこの5つの芸術分野を採用していない州も存在するが、「芸術科」という教科で授業が組まれている。

わが国では、文部科学省の研究開発学校制度において、教育上の課題や急激な社会の変化・発展に伴って生じた学校教育に対する多様な要請に対応するために、新しい教育課程・指導方法を開発していこうとする動きのなかで、いくつかの研究開発学校において1990年代から「表現科」を実践した例がある²。しかし、実際に教科として、「表現科」は採用されておらず、各芸術分野のもつ独自性を考慮すると、各芸術分野を統合することは困難であると思われる。そこで、各芸術分野を統合し、「芸術科」として、授業を行っているオーストラリアのカリキュラムを考察することで、芸術科の1分野としての音楽科の位置づけについて検討したい。

本研究では、国家レベルの芸術科ナショナル・カリキュラムである、*A Statement on the Arts for Australian schools*³（以下、ステイトメント）と、*The arts - a curriculum profile for Australian schools*⁴（以下、プロファイル）および、州レベルのカリキュラムである、6州1準州⁵（タスマニア州、ニューサウスウェールズ州、西オーストラリア州、南オーストラリア州、クイーンズランド州、ヴィクトリア州、北部準州）の芸術科カリキュラムを分析・検討し、芸術科および音楽分野の目標および内容の特徴について明らかにする。そこから、オーストラリアの初等教育における芸術科カリキュラムでは芸術科としての学習をどのようにとらえているのか、またそのなかで、音楽分野のもつ専門性や独自性がどのように考えられているのかを明らかにすることを目的とする。

¹ 各州によって指導要領の名称が異なるため、カリキュラムに統一する。

² 文部科学省ホームページ。

³ Curriculum Corporation, *A statement on the arts for Australian schools*, Curriculum Corporation, 1994.

⁴ Curriculum Corporation, *The arts - a curriculum profile for Australian schools*, Curriculum Corporation, 1998.

⁵ オーストラリアには、上記の6州1準州のほかに首都直轄区が存在するが、各教科のカリキュラムはニューサウスウェールズ州と共通であるために、検討する州・準州には含めないものとする。

II ナショナル・カリキュラムについての検討

芸術科のナショナル・カリキュラムは、ステイトメントとプロフィールの2冊に分けて記されている。ステイトメントは、芸術科における学習の目標や段階ごとの学習内容を示したものであり、プロフィールは、各段階における到達目標や内容を示すものである。ステイトメントでは、1学年から12学年を、AからDの4つの段階に区分しており、各芸術分野の学習内容はBandに沿って示されている。Band Aは、第1学年から第3学年（初等低学年）、Band Bは、第4学年から第6学年（初等教育高学年）、Band Cは、第7学年から第9学年（前期中等教育）、Band Dは、第10学年から第12学年（後期中等教育）を示している。また、プロフィールでは、第1学年から第12学年をレベル1からレベル8つの段階で示している。

芸術科には、①「創作、制作、発表」、②「芸術批評と美的感覚」、③「過去と現在の状況」という3つの学習領域が定められており、どの芸術分野もこの共通の学習領域にしたがって、学習内容が示されている。音楽分野も同様に上記の3つの学習領域にしたがって学習内容が示されており、学習内容を検討した結果その特徴として、音楽の創作、再現、探究、理解といった「経験」と、音楽の要素、音楽の歴史、文化を学ぶという知識の学習をとおして、音楽の本質、音楽への美的感覚、音楽への理解を発達させることが音楽学習の内容となっていることが明らかとなった。

また、プロフィールにおいては、「創作、制作、発表」がさらに細かい学習領域に分けられており、「アイデアの探求と発達」、「技能、技術、プロセスの使用」、「発表」となっている。プロフィールからは、音楽分野の学習内容における詳細を見ることができる。

そこでは、音楽の学習はまず自分の声、動物の声や機械の音、楽器の音について探究し、身体表現で表し、認識することから始まる。そして、音の探求は、音楽の要素、形式、構造といった音楽分野特有の専門知識や用語へと移行していく。音楽の要素、用語、技能は、どの領域でも学習されており、それを使用したり、即興したり、創作したりといった表現活動によって学習されている。また、自分の生活において音楽がどのように使用されるかを認識する学習から始まり、オーストラリアの作曲家や民族の音楽など、自国の文化における音楽への認識から多様な文化や社会における音楽の学習へと広がりを見せる。

プロフィールで求められている音楽分野の能力として、創作、作曲、発表といった表現活動と、説明する、話し合うといった言語活動によって、獲得した音楽の知識や要素、文化や社会との関連について示すことが求められていると言えるであろう。

III 各州・準州の芸術科カリキュラムの検討

1. ニューサウスウェールズ州

ニューサウスウェールズ州の芸術科のカリキュラムである、Creative Arts K-6⁶（以下、NSWカリキュラム）は、美術、音楽、ドラマ、ダンスの4つの芸術分野を、芸術科の分野として位置づけている。

幼稚園（Kindergarten）から第6学年（Year 6）までの7年間で、4段階（Early Stage 1～Stage 3）に分けられており、Early Stage 1（幼稚園）、Stage 1（第1、2学年）、Stage 2（第3、4学年）、Stage 3（第5、6学年）となっている。

NSWカリキュラムの特徴として、まずナショナル・カリキュラムと異なり、ダンス、ドラマ、音楽、美術の4分野が芸術科とされていることがあげられる。また、各芸術分野には、共通の学習領域が定められておらず、各芸術分野に特有の学習領域を柱として、学習内容が編成されている。

音楽分野では、「表現（歌唱・演奏・身体表現）」、「音の組織」、「聴取」という音楽特有の領域が定められていることから、各芸術分野の専門性や独自性を特に重視していると言える。音楽分野の学習の特徴としては、①音楽の概念の理解とその使用技能の獲得、②音楽の概念を認識するための聴取能力の重視があげられる。NSWカリキュラムの音楽分野では、音楽の概念が重要な学習内容とされ、聴取を中心として基礎的な能力を獲得することを重要視していると考えられよう。

⁶ The State of New South Wales, Creative Arts K-6 Syllabus, 2006

2. 北部準州

北部準州の芸術科カリキュラムである、NT curriculum Framework Arts Learning Area⁷（以下、北部準州カリキュラム）では、ダンス、ドラマ、メディア、音楽、美術の5つの芸術分野を芸術科の分野として位置付けている。幼稚園から第10学年（Year 10）までが、Key Growth Point（以下、KGP）1～3、Band 1～5+の9段階の到達レベルに分けられ、各芸術分野において到達レベルごとの学習内容が記述されている。

北部準州カリキュラムの特徴として、学習内容が、子どもの体験や興味を重視する内容から、専門的な内容へと移行していくことがあげられる。そのなかで行われる芸術の諸要素の学習は、創作・表現という児童の活動をとおして定着させられる。また、芸術科のカリキュラムとして、どの芸術分野も「芸術のアイディアの創造」、「芸術の技能とプロセス」、「芸術への反応と分析」という3つの領域を共通の柱として学習内容が編成されている。また、芸術科の学習はアジアの学習、環境的教育および土地固有の文化の理解を強化するための手段として、芸術の社会的かつ文化的な性質を強調していると考えられる。

音楽分野では、聴取を中心として、音楽の要素を使用すること、図形楽譜に表して視覚的認識をさせること、音楽用語の使用を繰り返し行うことで音楽の要素の定着を図っていることや、歌唱体験および音の探究によって、要素を認識し、認識したらそれを技能として獲得させていくプロセスを経ている。また、それらの学習はレベルごとに内容が高度化していく点から、音楽分野としての専門性や独自性は保たれていると考えられる。音楽の学習の特徴としては、①演奏技能の獲得を重視している点、②固有の文化や社会における芸術の目的、重要性およびその影響を学習することを重視している点があげられる。

3. クイーンズランド州

クイーンズランド州の芸術科カリキュラムである The Arts Queensland Curriculum, Assessment and Reporting⁸（以下、クイーンズランド州カリキュラム）では、ダンス、ドラマ、メディア、音楽、美術の5分野を芸術分野として定めている。芸術科の学習内容は、義務教育段階である第1学年から第9学年までを、By the end of Year 3（以下、Year 3）・Year 5・Year 7・Year 9という4段階に分けて記述している。

各芸術分野には共通の5つの学習領域である、「知識と理解 knowledge and understanding」、「創作 creating」、「発表 presenting」、「反応 responding」、「省察 reflecting」が設定されている。

クイーンズランド州カリキュラムの特徴として、上記の5つの学習領域のうち、「知識と理解 knowledge and understanding」の学習領域において各芸術分野の要素や用語について示されているが、他の4つの学習領域においては、どの芸術分野にも共通の学習内容となっており、芸術分野ごとの具体的な内容は記されていない。それらの領域のなかで、特徴的な領域が「省察 reflecting」の領域である。芸術全体で目的や聴衆を考慮した発表に重点をおいており、さらにそこから学習を省察することで、芸術の学習を社会や生涯にわたるものにする意図があると考えられる。

音楽分野では、学習内容は段階をふんで拡大されており、学習の系統性が見られることから、音楽分野の基礎的な内容の専門性は保たれていると考えられる。ただ、音楽を表現するうえで必要とされる演奏技能や読譜・記譜の能力に関する学習については特に示されていない。

芸術分野を統合したカリキュラムという点から考えてみた場合、音楽の要素や用語という基礎的な知識を作曲や創作などの主体的な活動によって獲得させており、他の演奏や発表といった活動は、芸術に共通の活動となっていることから、音楽分野の独自性というよりも、芸術科としての統合の考えが強く表れていると考えられる。

4. 南オーストラリア州

南オーストラリア州の芸術科カリキュラムである South Australian Curriculum, Standards and Accountability Framework Arts⁹（以下、南オーストラリア州カリキュラム）は、ダンス、ドラマ、メディ

⁷ The State of Northern Territory, NT curriculum framework Arts Learning Area, 2007.

⁸ The State of Queensland, The Arts Queensland Curriculum, Assessment and Reporting Framework, 2007.

⁹ The State of South Australia, South Australian Curriculum, Standards and Accountability Framework, 2007.

ア、音楽、美術の5つとその結合を主要な芸術分野として位置づけている。

南オーストラリアカリキュラムでは、幼稚園から第12学年までの学習内容が6つの段階に分けて記述されている。芸術分野には、共通の3つの学習領域が設定されており、「芸術の実技 arts practice」、「芸術の分析と反応 arts analysis and response」、「文脈における芸術 arts in contexts」となっている。また、学習内容は、芸術分野別で段階ごとに記述されている。

南オーストラリア州カリキュラムの特徴として、芸術分野に共通の学習領域が設けられており、段階別の目標に関しても、芸術分野別に設定されているのではなく、芸術分野全体としての目標のもとに、各芸術分野での学習内容が示されている形となっている。特に「芸術の分析と反応」、「文脈における芸術」においては、各芸術分野に共通した学習目標も示されており、どの芸術分野においても、同じ目標をもった学習を見とおして行うことが意図されている。南オーストラリア州のカリキュラムでは、芸術をとおした学習の目標の達成を目指して、各芸術分野の学習内容を構成しているカリキュラムであると考えられる。また、芸術科の学習目標を見ていくと、芸術の要素や作品など、芸術そのものを扱う内容のほか、芸術が生活のなかで使用されている手段や、芸術をとおして多様な分野に触れ、理解するといった、社会や文化を理解するための目的とした芸術の学習が行われていることが分かる。ここでの芸術科の学習は芸術そのものを理解する学習と、芸術を手段とした学習の2つが、芸術科の学習としてとらえている。

音楽分野では、学習するべきとされている音楽の要素については、基礎的な内容と、音楽の繰り返しのパターンといった簡単な形式についての内容を述べるにとどまっており、レベルごとの内容の変化を見ても、それらの内容の関連性、連続性は見られない。そのため、音楽の要素やなどの音楽分野独自の内容については、特に学習に系統性はないと考えられる。

5. タスマニア州

タスマニア州の芸術科カリキュラムである、*Tasmanian Curriculum Arts Curriculum Area The Arts*⁹（以下、タスマニア州カリキュラム）では、ダンス、ドラマ、メディア、音楽、美術の5つの芸術分野を主要な芸術分野としている。学習内容は、段階別に示されており、その段階は、Kindergartenから第10学年までの学年を5つの段階にわけ、さらに15つの学習段階（ステージ）で表し、各ステージをどの学年で学習すべきか、ということを示している。

学習領域に関しては、タスマニアカリキュラムでは、「新たな作品の想像と創作」、「技能、技術、手順の使用」、「記号と慣習の使用」、「目的をもった発表」、「他人の作品の解釈と評価」、「美的選択」、「個人の意見の表現」、「文化的、社会的、歴史的背景の反映」の8つが芸術科に共通の学習領域として定められている。

タスマニア州カリキュラムの特徴として、各芸術分野相互が関連しており、複数の芸術を扱うことで芸術への理解が深まるということが示されている。芸術科カリキュラムとして、芸術共通の目標と各分野の独立性をもってカリキュラムが構成されていることが分かる。

音楽分野では、学習内容は、「経験」をとおして、音楽の要素、美的感覚を学習し、歴史的、文化的背景といった知識を学習したうえで、児童・生徒自身が実演することが求められている。また、音楽の学習内容について詳細に述べられており、それぞれの芸術分野の特徴や独自の知識についても詳細であった。音楽における表現や創作といえば、表面的なものになりがちだが、記譜に関する項目や、楽器の技術の習得など、音楽的内容の学習も詳細に明記されており、学習の系統性ももたせている点から、音楽科としての特徴や独自性を保とうとする姿勢がうかがえるものであると言えよう。

6. ヴィクトリア州

ヴィクトリア州の芸術科カリキュラムである *Victorian Essential Learning Standards The Arts*¹¹（以下、ヴィクトリア州カリキュラム）は、美術、ダンス、ドラマ、メディア、音楽の5つの芸術分野を主要な芸術分野として位置づけている。ヴィクトリア州カリキュラムでは、幼稚園から第10学年の芸術科の学習

⁹ The State of Tasmania, *The Tasmanian Curriculum Arts Curriculum Area*, 2006.

¹⁰ VCAA, *Victorian Essential Learning Standards The Arts*, 2008.

¹¹ Curriculum Council of Western Australia, *THE ARTS Learning Area Statement*, 2006.

内容をレベル1からレベル6の6段階に分けて記述されている。各芸術分野の学習内容は、共通の学習領域ごとに示されており、「創作と制作 Creating and making」、「探求と反応 Exploring and responding」の2領域となっている。「探求と反応 Exploring and responding」の学習領域は、レベル3から学習が開始される。

ヴィクトリア州カリキュラムの特徴として、各芸術分野に共通の学習領域が示されており、領域ごとに芸術科全体の学習内容が示される構成となっている。また各芸術分野の内容については、それぞれの芸術分野特有の重要な活動、芸術の要素、プロセスについて用語は示されているが、詳細な学習内容や方法については、一例が示されているに過ぎず、どのような活動を重視して芸術の学習を行うべきかは明らかになっていない。このことから、芸術科としての目標や学習内容を重視し、各芸術分野独自の知識や活動をうまく芸術科共通の目標に適合させて学習を行っていると考えられる。

音楽分野は、音楽分野の学習内容として、音高（メロディ、和声）、音の持続（リズム、拍、拍子）、ダイナミクス、音量、テンポ、音色、テクスチュア／タンブル、調性、アーティキュレーションといった音楽の要素、器楽、声楽、サウンドスケープ、作曲、即興といった芸術の形式、学習する音楽形式の例として、交響曲、ラーガ、ブルース、歌曲形式が、学習する用語として示されている。

音楽分野で、何を学習するかということは示されているが、学習の方法やプロセスについては、カリキュラムには示されておらず、各芸術分野の学習については専門性や明確さは見られない。

7. 西オーストラリア州

西オーストラリア州の芸術科カリキュラムである、THE ARTS Learning Area Statement¹²（以下、西オーストラリア州カリキュラム）は、ダンス、ドラマ、メディア、音楽、美術の5つを芸術科の分野として位置づけている。西オーストラリアカリキュラムでは、幼稚園から第12学年までの学習内容が、4つの段階に分けられて記述されている。芸術分野には、共通の学習領域が設定されており、「芸術のアイディア ARTS IDEA」、「芸術の技能とプロセス ARTS SKILLS AND PROCESSES」、「芸術の反応 ARTS RESPONSES」、「社会における芸術 ARTS IN SOCIETY」の4つとなっている。

西オーストラリアカリキュラムの特徴として、各芸術分野に共通の学習領域が示されており、領域ごとに芸術科全体の学習内容が示される構成となっていることから、芸術科としての目標や学習内容を共有し、各芸術分野の独自の活動や要素を取り入れて、芸術科の学習を進めていくカリキュラム構成となっていると考えられる。また芸術分野のつながりに関して、特に芸術分野を結合した内容や目標が示されていることから、目的や意図にあわせて柔軟に各芸術分野を使用することが重視されているといえる。

音楽分野では、重要な活動として、創作、演奏といった積極的な表現活動と、その活動の省察があげられている。演奏に関しては音楽家と聴衆の関係など、音楽の目的や与える影響を考慮することが特徴的である。使用する芸術要素についても明記されているが、段階別の内容は示されておらず、音楽の要素や知識の学習については、どのように学習されていくのかが示されていないカリキュラムとなっていた。また演奏についてもその技能の習得方法については記述がなく、音楽分野の学習に不可欠である読譜・記譜に関するものも見られないことから、音楽分野に関しては、要素や知識など最低限の用語や技能の学習が行われていると考えられる。

¹² Curriculum Council of Western Australia, THE ARTS Learning Area Statement, 2006.

- 曹念慈「芸術統合カリキュラムにおける諸芸術の統合方法に関する研究－1990年代以降の台湾、日本、米国の小学校音楽科教育課程を中心に－」広島大学大学院教育学研究科博士論文、2006。
- 四橋美紗恵「オーストラリアの音楽科教科書に関する一考察－ナショナル・カリキュラムとの関連性をおして－」広島大学教育学部音楽文化系コース卒業論文、2007。

<参考 web 資料>

- Australian Government
<http://www.australia.gov.au/> (accessed 2010-10-27)
- Creative Arts K-6 Syllabus
http://k6.boardofstudies.nsw.edu.au/files/arts/k6_creative_arts_syl.pdf (accessed 2010-10-21)
- Curriculum Council of Western Australia
<http://www.curriculum.wa.edu.au/> (accessed 2010-10-27)
- NT curriculum Framework Arts Learning Area
http://www.det.nt.gov.au/_data/assets/pdf_file/0013/2371/learning_areas_arts.pdf (accessed 2010-10-27)
- Queensland Studies Authority
<http://www.qsa.qld.edu.au/7262.html> (accessed 2010-10-21)
- South Australian Curriculum Standards and Accountability Online
<http://www.sacsa.sa.edu.au/splash.asp> (accessed 2010-10-27)
- The Tasmanian Curriculum Arts Curriculum Area K-10 Syllabus and support materials
<http://resources.education.tas.gov.au/item/edres/1e956148-5841-2dba-ef9d-1e03185e9025/1/syl-arts-all.pdf>
(accessed 2010-10-27)
- Victorian Curriculum and Assessment Authority
<http://www.vcaa.vic.edu.au/index.html> (accessed 2010-12-28)
- Victorian Essential Learning Standards THE ARTS
http://vels.vcaa.vic.edu.au/downloads/vels_standards/velsrevisedarts.pdf (accessed 2011-1-15)
- The Arts Learning Area Statement
http://www.curriculum.wa.edu.au/internet/Years_K10/Curriculum_Framework (accessed 2011-1-20)